



七月三十一日午後五時より、恒例の「大祓式・夏越祭」が多数の氏子・崇敬者参列のもと古式に則り厳肅に斎行された。

# 夏越の大祓式

# 宗 像

## 9月祭事曆

- 毎月1・15日月次祭
  - 午前10時～ 高宮祭 第二宮・第三宮祭
  - 引き続き 宗像護国神社 月命日祭(1日) 遥拝(15日)
- 午前11時～ 総社祭 浦安舞 奉奏(1日)
- ※1日は併せて 風鎮祭 斎行 豊栄舞 奉奏(15日)
- 23日
  - 皇靈殿遥拝式 午前10時～ 於 = 境内

年間知らず知らずのうちに犯した罪・穢を祓清めることにより災厄を避け、後半の半年間を何事もなく過ごせるようにとの願いを込めて行われている神事である。

前日から台風十号が九州に接近し、神門前で懸念され、祭場変更かとあやぶまれたが、幸いにも進路がそれたため、通常通り斎行されることとなった。

早朝から地元総代の御奉仕により、大社近くの川辺で茅切りをし、境内で茅輪奉製作業が行われ、昼前には緑鮮やかな直径三メートルの大茅輪が神門に取り付けられた。

古来より、この茅輪を三度潜れば邪気・災難を祓い去り、暑気にもめげず健全な生活を送ることができると伝承されている。

定刻午後五時、全国から寄せられた人形が大茅輪の前に供えられ、神門前で大祓神事が開始された。高向権宮司が「大祓詞」を奏上、参列者各人に配られた切麻で祓い、「祓物」という白布に息をかけ切り裂いて半年間の罪・穢を祓った。

続いて神島宮司以下参列者全員が、



茅輪を先ず左に回り「みなつきの夏越の祓へする人は千歳の命延ぶというなり」、次いで右に回り「思ふこと皆つきねとて麻の葉を切りに切りても祓ひつるかな」、続いて左に回り「宮川の清き流れにみそぎせば祈れることの叶ぬはなし」と古歌を奉唱しながら大茅輪を三度潜り、無病息災を祈った。

引き続き本殿に参進し、夏越祭を斎行。国家・皇室の安泰と繁栄、氏子崇敬者と全国各地より人形を送られた方々の健康・災難消除を祈念する祝詞が奏上され、巫女が神楽「豊栄舞」を神前で奉奏し、夏恒例の一大神事は滞りなく終了した。

## 宗像大社 御神菓 調製

味噌せんべい・博多の四季

## 本舗 梅月堂

代表取締役 三野 拓蔵  
〒812-0029  
福岡市博多区古門戸町1-11  
TEL 092-291-2966

残暑御見舞申し上げます



# 中津宮七夕揮毫会

七月二十三日、例年になく猛暑の中、筑前大島の中津宮に於いて「宗像大社中津宮七夕揮毫会」が約一六〇人の幼・小・中学生の子供達が参加の下、盛大裡に開催された。

この揮毫会は中津宮で廣行される「七夕祭」に併せ、昭和三十一年に始まり、今年で四十九回目を迎え、毎年夏休みのこの時期に大島小・中学校の先生方をはじめ各方面のご協力・指導を仰ぎ開催されている。

当日、開催地大島は勿論、日々の練習の成果をみせようと宗像地区、福岡県内各地よりフェリーにて大島へ渡島、揮毫会場である大島小中学校の校舎に於いて早速席上



揮毫する子供たち(於=大島小学校)

福岡県知事賞	原 愛梨	柳 河 小 5 年
	田畑 久子	高 取 中 3 年
県議会議長賞	上村 真凜	福教大付属 小4年
	原 由梨亜	柳 城 中 2 年
県教育委員会賞	三木 祐佳里	津屋崎 小6年
	衣川 枝里	津屋崎 中 1 年
宗像大社宮司賞	三木 まゆか	津屋崎 小 2 年
	本田 真侑子	福岡隻葉中 2 年
郡町村長会長賞	萱野 優生	赤 間 小 3 年
	井土 史穂	中 央 中 1 年
郡町村議長会長賞	田崎 愛	津屋崎 小 6 年
	米満 文美	福 間 中 3 年
宗像市市長賞	松原 しほ	篠 栗 小 1 年
	山田 早紀	福 間 中 2 年
大島村村長賞	松原 周蔵	篠 栗 小 5 年
	土井 亜理香	原 北 中 1 年
村教育委員会賞	鈴木 琴音	津屋崎 小 3 年
	佐伯 恭子	福 間 中 3 年

各賞受賞者は次の通り。

一同は家路についた。

揮毫に挑んだ。子供達は波音と蟬の泣き声しか聞こえない夏の静寂な空気の中書に打ち込み、午前中でに数枚を書き終え、その中から一枚を選出し、「自信作」を手に中津宮へ来宮、正午過ぎには中津宮社務所に全作品が提出され、御神前へ奉獻、祭典の後審査が開始された。

その間、子供達と保護者は、神社前の浜に於いて恒例のサザエ拾いや海水浴を楽しみ、大島ならではの自然を満喫した。

午後三時には審査も終わり、早速境内回廊に入選作品を展示。引き続き表彰式を行い、神職より入賞者に賞状とトロフィーが授与された。

午後四時には表彰式を終え、本年の揮毫会も無事終了。大島での夏の思い出を土産に一同は家路についた。



審査する先生方



揮毫後の「サザエ獲り」をする子供達



## 宗像建設協会

事務局 〒811-3205 福岡県宗像郡福間町大字内殿1021-9  
TEL (0940)42-3085

株式会社 **井上建設**

〒八二、三二一七  
宗像郡福間町中央五丁目一、二〇  
TEL 〇九四〇、四二、一〇三三  
FAX 〇九四〇、四二、〇三二七  
井上 重信

株式会社 **桜井建設**

〒八二、三二〇二  
宗像郡福間町畦三、四、六  
TEL 〇九四〇、四二、一〇八八  
FAX 〇九四〇、四二、一五二八  
櫻井 良行

株式会社 **篠崎建設**

〒八二、三二〇五  
宗像郡福間町大字内殿一〇二、一、九  
TEL 〇九四〇、四二、〇六一七  
FAX 〇九四〇、四二、〇六七五  
篠崎 清

株式会社 **田畑建設**

〒八二、三二一九  
宗像郡福間町西福間三、一、五、一〇  
TEL 〇九四〇、四二、〇五一三  
FAX 〇九四〇、四二、〇二八五  
田畑 博規

株式会社 **日新建設**

〒八二、三三三二  
宗像市田熊八二九  
TEL 〇九四〇、三六、二二三一  
FAX 〇九四〇、三六、四七九八  
長尾 榮次

株式会社 **松崎組**

福岡市中央区荒戸一丁目二、一、四  
TEL 〇九二七、五二、一、三六九二  
〒八二、三三〇五  
宗像郡津屋崎町大字宮司字川下一八、九、三  
TEL 〇九四〇、五二、一、一三三〇  
FAX 〇九四〇、五二、一、一三三三  
松崎 芳勝

株式会社 **松本組建設**

〒八二、三三〇一  
宗像市神湊一〇二、〇  
TEL 〇九四〇、六二、〇〇一六  
FAX 〇九四〇、六二、〇〇一六  
松本 純次

残暑御見舞申し上げます





牽牛神社



短冊に願い込め  
中津宮七夕祭

中津宮境内には大島最高峰の御嶽山を源流とする「天の川」が流れ、この清流を挟んで石祠の「牽牛社」と「織女社」が鎮座しており、年に一度「七夕祭」が行われている。同島でこの祭事を目にした商人が、京の都に伝え七夕行事が全国に伝播したとされ、大島が七夕伝説発祥といわれる由縁である。

その七夕祭が八月七日筑前大島中津宮で村を挙げて斎行された。早朝から、沖中両宮奉賛会役員(会長 佐藤千里氏、同敬神婦人部(部長 今里タケ子氏)、翼賛会(会長 上野美実氏)の御奉仕により笹竹取り、七夕の飾り付けが行われ、境内には大島村民、幼稚園児、篤信者、また今年からの試みである辺津宮参拝者が願いを込めて書いた短冊が笹竹に結ばれ七夕ムード一色となった。午後七時頃から浴衣姿になった島民、帰省した島出身者らが続々と参集、大島村青年団(団長 上野勇美氏)御奉仕による「金魚すくい」「ヨーヨー釣り」、翼賛会の御奉仕



織女神社



金魚すくい



祭典の様子

により実現した「カキ氷」などが催された。午後八時神職二名、巫女一名の奉仕により「七夕祭」が斎行され、河辺大島村長以下参列者が願いを込め玉串を捧げた。祭典後は、一同大島居を廻りながら、伝統の七夕踊りを奉納し大いに盛り上がり、島の一夜はゆつくりと過ぎていった。

◀特殊神饌の「西瓜」

**宗像タクシー協会** 連絡先 〒811-4183 福岡県宗像市土穴398-11 TEL (0940)35-1111

<p><b>宗像交通有限公司</b> 代表取締役 塩川 浩一 宗像郡津屋崎町新川端七一九五 TEL 〇九四〇・五二・〇〇一五</p>	<p><b>福栄タクシー有限公司</b> 代表取締役 保井 享 宗像郡福岡町西福岡二丁目十三 TEL 〇九四〇・四二・〇三七三</p>	<p><b>宗像平和タクシー株式会社</b> 代表取締役 塩川 浩一 宗像郡福岡町中央三丁目八十一 TEL 〇九四〇・四二・〇〇四〇</p>	<p><b>宗像グリーンタクシー有限公司</b> 代表取締役 藤瀬 政敏 宗像市河東一〇六一 TEL 〇九四〇・三三・三三〇三</p>	<p><b>宗像西鉄タクシー株式会社</b> 代表取締役 平木 俊敬 宗像市自由ヶ丘二七三 TEL 〇九四〇・三二・四一三一</p>	<p><b>新星交通有限公司</b> 代表取締役 森 正彦 宗像市東郷八九四三 東郷営業所 TEL 〇九四〇・三六・二一三八</p>	<p><b>みなとタクシー株式会社</b> 代表取締役 古野 浩 宗像市土穴三九八十一 TEL 〇九四〇・三三・一三三一</p>
--------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------

残暑御見舞申し上げます



# 第11回神道行法禊練成会開催 福岡県神道青年会「宗像三宮」を参拜

去る八月二・三日の両日、福岡県の若手神職で構成する福岡県神道青年会が、「鎮魂禊」といった神道行法を学ぶ錬成会を、大宰府天満宮小島居信員前権宮司、松尾太輔権禰宜を講師に迎え、当大社沖津宮の鎮座する「沖ノ島」で開催した。

岐尊の禊祓に始まり、明治の御代に※川面凡児先生が復興させ今日に伝わる。「鎮魂」とは、文字通り魂を鎮める事で※石上神宮奈良(天理市)に伝わる物部の鎮魂神業である。今回は、神職といえども中々渡島する機会に恵まれない「沖ノ島」に参拝出来るとあって約三十名が参加した。



「大祓詞」を唱える参加者

翌三日早朝、台風の影響が懸念されたが、大島港より瀬渡船「恵比須丸」で沖ノ島を目指す。一時間程で到着直ちに海岸で禊行、海水に浸かり大祓詞を奏上した。禊を済ませると沖ノ島中腹にある沖津宮を正式参拝、

二日午後一時当大社辺津宮に集合、同宮正式参拝の後、清明殿で開講式を行い、神宝館を拜観した。その後、神湊港まで移動し、渡海船「おおしま」で筑前大島に渡島。中津宮を正式参拝した後、「民宿・真鍋」に到着。夜半まで小島居先生より「鎮魂」行法を伝授頂き、その夜は大島で斎泊した。

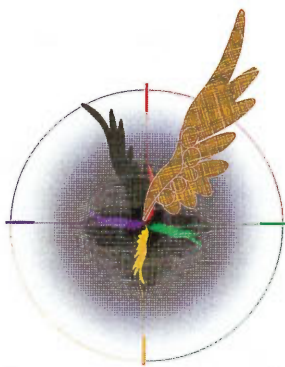


「禊行法」をする参加者

当大社神職より遺跡の説明受け、希望者は更に灯台のある「ノ岳」山頂まで登拝した。帰りは神湊港に直行し、「魚屋本館」で閉講式・懇親会となった。

今回の参加者の中で沖ノ島渡島経験をもつのは、当大社職員を除いて一名のみとほぼ全員が初めて。一同「福岡で神主をしているなら一度は行ってみたい」と口を揃え喜んでた。特に講師の小島居先生は渡島三回目にしてやっと島に渡ることができ、感慨深げに講評の挨拶をされていた。

台風が通過直後だったため、前日の当大社沖津宮勤務交代も延びており、天候を一番心配したが、両日とも雨は降らず波もさほど高くなく、行程通りに進んだ。ちなみに翌日からは大雨、海も時化と、この両日の若手神職一行を沖ノ島の田心姫神様に歓迎していただいたようであった。



「聞く・考える・作る・伝える」ことが、私たちの仕事です。私たちは「ヘルメス企業体」です。

ギリシャ神話に登場する神・ヘルメスは、翼の生えた帽子とサンダルを身につけ、神々の間を飛び回ってそれぞれの神の意志を伝えました。より良いコミュニケーションのお手伝いをめざす秀巧社もまた、ヘルメスでありたいと考えます。お客様が伝えたいことを、伝えたい人にきちんと伝えたい…秀巧社がめざすのは「ヘルメス企業体」です。



## Shukosha

秀巧社株式会社 営業本部  
〒810-0003 福岡市中央区春吉1-7-10  
TEL 092-712-7712 FAX 092-741-8091

# ほっかほっか亭 神湊店

福岡県宗像市神湊44  
(神湊交差点)  
TEL 0940-62-9501

残暑御見舞申し上げます





辺津宮での正式参拝



沖津宮での正式参拝終了後



中津宮での正式参拝

### 宗像大社秋季大祭(田島放生会) 日程

10月1日(金)	海上神幸(みあれ祭)	9:30	大島港出港
		10:30	神湊港入港
	一日祭(入御祭)	約11:40	於=辺津宮 本殿 主基地方風俗舞 奉納
10月2日(土)	流 鎗 馬 神 事	8:00	於=神門前 参道
	二 日 祭	11:00	於=辺津宮 本殿 翁 舞 奉納
10月3日(日)	三 日 祭	11:00	於=辺津宮 本殿 浦安舞 奉納
	高宮 秋季大祭	三日祭終了後引き続き、 各社に分かれ同時斎行	
	第二宮・第三宮 秋季大祭		
	宗像護国神社 秋季大祭		
献 茶 祭	14:00	於=辺津宮 本殿	

左記の日程で、当大社最重儀の秋季大祭田島放生会を斎行致します。  
多くの皆様の、御参列をお待ち申し上げます。

## 秋季大祭のお知らせ


お問い合わせ先

宗像大社 社務所 (0940)61131(代)


※ 川面凡児(一八六二〜一九二九)  
大分県宇佐郡出身。禊行法中興の祖、  
稜威会を組織し神職を始め広く禊の普及  
に努めた。福岡県にも縁深く昭和天皇即  
位大嘗祭・主基斎田の諸神事を指導した。

※ 石上神宮  
旧官幣大社で奈良県天理市に鎮座。古民  
物部氏天和朝廷の軍事・祭祀を担当の氏  
神として知られ、代々の宮司家は物部の鎮  
魂神業を一子相伝で継承してきた。戦後、  
神職に限りその伝授が許されている。

 **福岡銀行** 宗像支店  
支店長 伏原祐次 宗像市東郷5-4-5  
TEL 0940-36-2017

暮らしの夢を大きくひらく  
 **株式会社 城山家具**  
代表取締役社長 寺田 修  
宗像市三郎丸519-1  
本館 0940-33-5538 城山二 0940-33-0005

 **株式会社 九電工** 福岡北営業所  
〒811-3219  
所長 仲摩史郎 宗像郡福岡町西福岡2-17-17  
TEL 0940-42-1120

宗像大社給排水設備保守管理  
歡知と想像力による良好な飲料水の供給  
 **株式会社サニット九州**  
代表取締役 村田龍一  
福岡県遠賀郡遠賀町遠賀川1-2-8  
TEL 093-293-5354 FAX 093-293-8054

宗像大社神酒  
 **合資会社 伊豆本店**  
代表者 伊豆善也  
福岡県宗像市武丸1060  
TEL 0940-32-3010 FAX 0940-33-0512

カラー印刷・新聞雑誌・事務用品印刷  
 **大和印刷**  
代表取締役社長 福田雪雄  
糟屋郡新宮町原上字丸ノ内1615-1  
TEL 092-962-9200

残暑御見舞申し上げます



# 氏八満神社 拜殿上棟祭



今年の一月より氏八満神社の本殿・拜殿の改築工事が行われているが、七月二十五日午後四時、拜殿の上棟祭が高向権宮司外神職三名と施行の株弘江組花田社長、(有深田組深田和也社長ら弘江組工匠五名が奉仕し、氏八満神社改築建設委員会吉武正行委員長を始め委員の方々、氏八満神社責任役員、田島区長、地元田島の氏子の方々と共に、夏休みとあつて子供達も参列し斎行された。

去る四月二十一日の本殿上棟祭と同様に、大屋根の中央に五色を左右に、破魔矢天の弓・地の弓を置き斎場を調え祭典は始まった。

「曳き綱の儀」を、白衣・白袴に身を正した花田社長以下工匠六名と吉武委員長以下参列者により行われ、紅白の紐を引き振幣役の掛け声に合わせ「エイ、エイ、エイ」と唱え、棟木を上げた。

引き続き同社長以下工匠六名の内四名が屋根に上がり、振幣役が御幣を左右左と振り、屋根左側に向かって「千歳棟」と大声を発し、これに呼応して屋根の槌打役が「オー」と発声して槌で大きく棟木を打った。次いで、振幣役が御幣を振り、屋根中央に向かって「万歳棟」と大声を発し、これに呼応して屋根の槌打役が「オー」と発声して槌で大きく棟木を打つ。更に、振幣役が御幣を振り、屋根右側に向かって「永永棟」と大声を発する。これに呼応して屋根の槌打役が「オー」と発声して槌で大きく棟木を打ち「槌打ちの儀」を終え、目出度く竣工が祈念された。

祭典終了後には、「餅投げ」も行われ、参列者・近所の子供達が建物の周囲に集まり、餅が投げられる度に競って拾い合った。今後、氏八満神社の改築工事十一月の遷座祭を残すのみである。



祝詞を奏上する氏八満神社 高向宮司



「槌打ちの儀」

写真は一生の財産です

### Photo Studio

美しい証明写真・宮参り・百日・誕生・七五三・同窓会記念 各種出張撮影致します。

福岡県宗像市田熊1180-6 TEL 0940-36-8596



### 吉井商事株式会社

代表取締役社長 吉井 英海

本社 宗像市深田67-7  
TEL 0940-62-0004 FAX 0940-62-3343



創業大正七年 鮮魚・海産物  
**やまし**

福岡県宗像市神湊中町  
TEL 0940-62-0006(代)  
FAX 0940-62-2143

### ファミリーストア岡山

岡山 秀雄

福岡県宗像市神湊1000  
TEL 0940-62-0134  
FAX 0940-62-2914



### SANCS

事務機・文具・オフィス家具  
株式会社 **サンクス**

代表取締役社長 藤井 俊孝  
宗像市東郷109-3  
TEL 0940-37-2150  
FAX 0940-37-2428

### 食料品・青果・たばこ 田中商店

福岡県宗像市神湊1052  
TEL・FAX 0940-62-0122



## 残暑御見舞申し上げます



(続)

# 浜の奇物

187

いしい ただし



第十九回国民文化祭は十月三十日より十一月十四日までの十六日間、福岡県が開催県で各市町村テーマをかがけて行われる。古賀市は「風と潮のローマンス 対馬暖流漂着もの」で漂着物を取りあげる。

まず十月三十日は新宮古賀海岸の漂着物探集ピーチコーミングを行う。十一月六日は古賀市中央公民館で海をテーマに歌や踊りの文化発表会を。七日は一時より民俗学者で日本地名研究所所長の谷川健一氏が「黒潮に寄りく

るもの」を講演。漂着物の研究発表を杵岐原の辻遺跡事務所長の安楽勉氏に「王都に響く弥生の音色」、九州沖縄水中考古学協会副会長の石原渉氏に「海底からの声「てつはう」が語るもの」。漂着物学会事務局の松本敏郎氏に「日本海流黒潮」につて「フライアンの手紙」。期間中、古賀市立歴史資料館で漂着物展示も行い、講

師の話されるヤシ笛、てつはう、フライアンの手紙も展示。他に二六年間漂流つづけたピョン、韓国から北朝鮮へ流されたメッセージ。石垣に漂着したヒロベソオウムガイなど約一〇〇〇点を展示する。

さて五月中旬、宗像市にある歴史探訪のメンバーと杵岐へ行った。目的は海の王都原の辻遺跡である。生憎の雨だったが、築港から高速船で一時間少して郷浦港に着いた。とにかく速い。民宿が用意したバスで、昼食へ。食後、原の辻遺跡へ行く。

所長の安楽氏の出迎えを受け、早速館内を案内、こじんまりとした館内だが、原の辻がびつしりと詰まっていた。ムンクの叫びのよ



うな人面石、竜を描いた絵画土器、ヤシ笛と原の辻遺跡の目玉が展示されている。

黒潮流れる杵岐島だから、海流にのつての漂着も多いので、その海からの贈り物に、弥生人も浜歩きをしていたのである。

ヤシ笛



原の辻に立つ安楽氏

ヤシ笛を見ながら、もしかしたら、海流にのつて、定期的に南島人が来島して、プレゼントに南のヤシや貝などを積んできたのではなからうかと考えてみたりしたが……。

収蔵庫も案内してもらい、その発掘品の量に驚き、広大な遺跡にも足を延ばした。生憎の休日と雨で、発掘現場までは行けなかったが、丘陵の高いところだったので、遺跡全体がよく分かった。丘陵を囲むように三重の濠、住居群、青銅器の工房、そして大陸、朝鮮半島からの人達が上陸したであろう船着場が発掘されている。魏志倭人伝の三千ばかりの家がある」も誇張ではない。雨降るなか安楽氏の説明を聞きながら、参加者は、それぞれの原の辻を思い描いていた。

## 玄海ホテル旅館組合

玄海国定公園の中心 一風光明媚、生魚料理、宗像大社となり一



泉 館 ☎ (0940) 6210035

魚屋本店 ☎ (0940) 6212122

魚屋別館 ☎ (0940) 6213355

玄海旅館 ☎ (0940) 6210001

玄海ロイヤルホテル ☎ (0940) 6214111

神湊スカイホテル ☎ (0940) 6213800

高嘉旅館 ☎ (0940) 6211221

はなわらび ☎ (0940) 6211156

はま荘 ☎ (0940) 6210500

松風荘 ☎ (0940) 6210120

みなと荘 ☎ (0940) 6212255

国民宿舎ひびき ☎ (0940) 6211288

海宴 ☎ (0940) 6210100

残暑御見舞申し上げます



第五一七回

宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切



老いし身の心の糧と歌を詠み詠みたる歌に支へられる  
〔評〕歌ゆゑの安住感、歌を作ることには生きる証しとして御加餐下さい。

田野 森 つるの

福間 池浦 千鶴子  
栄養剤一本のみで出でんとす若き戻れと暗示をかけて  
〔評〕こちらは、まだ体を動かす身力のある作者の、ある朝の姿をうまく掬い取って詠っている。

田熊 有田 ゆり子

万本のひまはりの花空に向き熱吹きるるや真夏日の昼  
〔評〕休耕田を利用しての向日葵畑だろうか、夏の向日葵の息吹きが描かれている。

浮羽 向 則正

合鴨の二百羽の雛早苗田の朝を放たれ散ばりてゆく  
〔評〕有田作品は生産を伴わない農村風景、向作品は新しい米作りへの風景。二つを並べると今の農業政策のむつかしき、空しさが見える。

王丸 小方 玲子

「ちゃん」付で我を呼びたる村人と会話はつむも職退きてより  
〔評〕退職し村に帰り、幼馴染達との会話に再び村の住民となった実感が一入りの作者であろう。

池田 森 龍子

映像に寺の紫陽花露含み蛙止まるはやらせと思ふ  
〔評〕やらせの画像だと思ひながら見ている作者。やらせではないと自然らしさが出せない程今の自然は病んでいるのだらう。悲しい一首。

朝野 藤井 浩子

じゃらじゃらと腰にもろもろぶら下げる若き美容師に落ち着かざる  
〔評〕鏡や櫛など七つ道具を腰のバンドにぶら下けている美容師、流行なのか、おしゃれと思うのか、でも作者はそれに抵抗を感じる頑固さを持つ女侍である。そこがいい。

日の里 神田 一敏

盆来れば買ってやるぞと言はれたる貧しき頃も遠くなりたり  
〔評〕私も盆には花火と下駄を買って貰うのが楽しみであった。一億総中産階級の今には無い季節の節目としての盆や正月が昔はあった。

牟田尻 横山 雪子

珊瑚樹の珠実が精く色付けり七月半ばを秋感じしや  
〔評〕桜の開花に象徴される自然界の異常。「秋感じしや」には嘆嗟のころがこもっている。

大島 杉田 禮子

水師營の歌聞こくる時計屋をのぞけば店主が微笑みており  
〔評〕いい処を捉えているが、道真空立が多過ぎる。結句「大時計が動く」位で止めて欲しかった。

東旭ヶ丘 天野 玲子

器用にも歌手がドラマに主演して役をこなせば別人に見ゆ  
〔評〕この一首、初句と四句が同意語で煩わしいので、初句を「年老いし」とか「まだ若き」と現実の歌手の姿を詠って欲しい。

日の里 大和 美由紀

せせらぎの音のひびける杉山に甘き香流す姥百合咲きて

大島 越智 治子

梅雨の雨待ても降らず照りつゞく異常気象に心さわぎぬ  
〔評〕一首其素直に詠われていて心魅かれる。素直は歌の原点である。

大井 木原 ふさ子

山水に陶石を搗く小屋のあり杵太くして地響のする  
〔評〕小石原あたりであろうか、「杵太くして地響のする」が、景と雰囲気をよく伝えていて、佳品。

田野 森 甲子

年一度の沖津宮の参拝は女人禁制、写真を拜む  
〔評〕篤い信仰の思いが、簡潔な叙述のなかにあらわれている。

選者 詠



にこやかに待つ美女の前支払ふと指に唾して財布より抜く  
デパートを下り上りするカンカン帽欲しと言ひつつ友と二人で  
君が代はイベントの時うたふもの甘くとろりと眠気を誘ふ

宗像大社歌会 俳句作品集(四九二)

福岡市 山本 了一

沖ノ島なつかし靈氣去年のこと

光岡 白土 凌一

朝がおに負けじと開く夕顔や

東郷 田中 憲象

追山笠や氣力極き立つ水法被

東郷 宗風社俳句会

基地撤去手鎖つなく夏の那覇

吉田 湧泉

梅雨晴れや音色明るき鳩時計

三浦 美千代

ばら園のばらの香りに埋れけり

田中 雨葉

河鹿宿清流ほしい儘一戸

木原 房子

訪へば春蟬のなく野の御寺

福岡 森 清

涼しさや窓辺に猫の寝そべおり

日の里 花田いつ枝

漢意気見せて祇園の山笠を穿く

編集後記

日本中がアテネオリンピック、宗像では第四十五期王位戦第四局が当社で行われ、たつた今、宮司・市長らの立会いで『最初の一手』が行われた。昭和四十六年に勅使をお迎えした勅使館が会場となり、谷川浩司氏に羽生善治氏が挑戦している。現在、勅使御参向時に奉仕した職員は宮司以下数名のみ。小生など生まれてもいない。当時には遠く及ばないが、その時の受け入れ体制、奔走した職員・地元の方々の気持ちに想った。現在、谷川王位の一勝一敗、同氏が善き返すか羽生氏が王手をかけるのか、宗像対局の結果は次号でお伝え致します。(M・O)

宗像大社社務所

発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 伊藤佳和  
編集人 大塚宗延  
制作 ジーエータップ  
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円